



音楽運動



日本音楽協会 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町3丁目10-15 富士ビル505号室 発行人 松本敏之
TEL 03-3221-1821 FAX 03-6369-3057 URL <http://nichionkyou.org> Email nichion@yomogi.or.jp



曲の豊かさといっぱいの鋭さを表現する合唱 「地底のうた」を歌う会

12月15日、「地底のうた」を歌う会（演奏会）が、千葉県習志野市の京成電鉄労働組合会館3階ホールで開催され、聴き手32人に歌い手と京成吹奏楽団、スタッフが42人、合計74人が参加しました。

2019年6月20日に千葉県内の音楽活動家が第53回はたらくものの音楽祭に向けた打ち合わせに集まった際、京成吹奏楽団副指揮者の鈴木賢二さんが、京成吹奏楽団と私鉄全国音楽集団、日音協の三者で演奏会を催し、そして最後に「地底のうた」を一体となって演奏したいと提案。8月22日に三者で実行委員会を立ち上げ、3回の合同練習をはじめ、準備してきま

した。会は13時30分に、松本政夫実行委員長（京成吹奏楽団正指揮者、私鉄全国音楽集団副代表、日音協千葉支部長）のあいさつで開会。私鉄全国音楽集団から、京成「た」こえサークルが「炭ほの仲間」「もやせ闘魂」「心はいつも夜明けだ」を、東武音楽集団は「我らの東武」「希望のうた」「輝く未来へ」（完全版）、そして私鉄全国音楽集団全体で「俺たちのとろで」「信頼」「私

鉄の仲間たち」をうたいました。「地底のうた」を歌う会を意識して三池炭鉱組ゆかりの歌をうたう京成、私鉄の仲間のうたにこだわった東武と、それぞれの色が出たと思います。

日音協からは、メーデー合唱団の「新しい花を求めて」「ぞ」と日音協千葉支部（合唱団ミール）の「Let's sing a song」「折りづる」「ジューゴンが住む海」「何もいない地球」「答えは我らに」「こんな時こそ」。メーデー合唱団には「ハーモニーがすてき」の声があり、合唱団ミールは「いつも心にペンを持ち、決して負けないと自分を励ます」という詩がしみりました。

休憩をはさんで松本政夫さん指揮による京成吹奏楽団。「エル・カピタン」はスーザの行進曲。「ウェストポート・オーバチュア」はジエイムズ・バーンス作。優しくゆったりとした中間部が印象的。「美空ひばりメドレー」は「リンゴ追分」「柔」「お祭りマンボ」「愛燦燦」。そして「仲間の歌」と「ベンゼレモス」を会場のみんなでうたいました。

最後は「地底のうた」合唱。ソロは松山恵子さんと田中大さ



現状を報告する宮脇好光さん（中央）

ん、伴奏は京成吹奏楽団、指揮は鈴木賢二さん。今年3月の私鉄・バス「うた」こえでうたった仲間たちに支えられたとはいえ、3回の練習でよくうたいたきったなと思います。「曲としての豊かさ、だけどころばの鋭さが表現された合唱」と評価をいただきました。

ここで鈴木さんが大牟田からおいでになった三池大災害被害者の会幹事の宮脇好光さんを紹介、宮脇さんは「三池大災害から56年たった今も入院患者が12人、通院患者が26人いる。毎年抗議集会を行って、『炭掘る仲間』と『がんばろう』をうたっている」とあいさつ。

根本賢治事務局長のあいさつに続いて全体で「インターナショナル」をうたって、閉会しました。

（松本敏之）

2020日音協セミナー＆若い会員の交流会
2020.2.21（金）～2.23（日） 東京都小平市・学園坂スタジオ他

21世紀の共生社会に向けて 音楽で何ができるだろうか

息苦しい日々が続いているとよく耳にします。圧倒的な貧富の差が生じており、差別が公然としたヘイトスピーチを生み、それを政府自らが助長している。涼しい顔をしたブラック企業が一企業などではなくブラックなのかもしれないし、涼しくない顔をした企業などどこにもないのかもしれませんが、ぎりぎり合法的な奴隷制を敷き、国家を後ろ盾に搾取を続けています。いつのまにか日本という国はファシズムの蔓延する国になってしまった。香港のように、警察が無抵抗の市民にいと簡単に暴力を加える日がいずれ来ることになるかもしれない。監視社会がますます強化され、異物排除の動きはもしかしたら想像以上に単純な仕方では襲いかかってくるかもしれない。誰も気づかない仕方では既に襲われているのでしょうか。こんな時代に、音楽でできることは何でしょうか。どのような仕方では抵抗することが可能なのか。いま一度、考えてみたいと思います。とはいえ紙数も限られるので、いくつかのテーマを書き出すこととします。

まず、近代史から捉えうる音楽のあり方について。明治以降の日本の音楽教育や音楽産業が何をもたらした、何を失わせたのか。日本で西洋音楽の教育システムが始まったのが1890年ごろ、東京音楽学校（＝後の東京芸大）のスタートでした。そのほぼ同じ頃の1891年、山葉楽器製造所が設立され、オルガンやピアノの製造が本格的になっていきます。いまから130年前。この130年間とは何だったのか、考えてみてもいい。全国どここの学校の音楽室に行っても、ヤマハやカワイのピアノが設置され、バッハやベートーベンの肖像が飾ってあるような音楽教育に果たしてどれだけ正統性があるのか。教育システムがドイツ偏重であることは常に指摘されており、いくらか軌道修正もあるようですが、まだまだ問題があるはず。いま中国でピアノブームが過熱し、調律師さんが不足するほど、と言います。ピアノという楽器のグローバル化の威力は凄まじく、おそらくその陰で消えていく楽器や音楽がたくさんあったし、現にあるはず。そういう音楽史の光と影をよく見つめ直してみたい。

次に、音楽とセクシュアリティの問題。音楽が、性別・性差を助長し、強化する装置として働いているのではないかという疑いが極めて濃厚です。20世紀後半から映像を通じた音楽のショービジネス化も相俟って、男性は男性らしく、女性は女性らしくパフォーマンスすることが強く求められてきた。卑近な例ではあるけれどNHKの紅白歌合戦など、典型的なものです。性とはもっと緩やかで決して対立するものではないはずなのに、なぜか合戦になってしまう。西洋音楽の理論には、男性終止・女性終止という用語があります。強拍で和音が解決するの

が男性終止、弱拍での解決が女性終止、という説明を受けますが、どうも釈然としない。どうやらその元にはラテン語の韻律の形式があるようなのですが、これもまた西洋由来の性に対する考え方が反映されている。女声・男声というパート分け然り。女性はドレス、男性はタキシード、のような棲み分け然り。音楽がジェンダーの表象そのものでもありうることは、やはり常に意識していきたい。

昨今のあいちトリエンナーレでも取り沙汰された、表現の自由・不自由、また公共とは何か、といった政治学的な視点から何が言えるか。音楽や詩は、例えばクラシックであればむしろ保護され、あるいは和歌であれば教科書にも載るような、政治に親和的な表現でもありえます。一方で、時の政権に不都合な表現は取り締まりに合う。9条短歌の問題も記憶に新しい。過去に放送禁止になった楽曲も少なくありません。このときに「公共」という語の意味がいったい何なのか、ということに改めて考えてみたい。公共の場だから控えるべき表現、言ってはいけないことがあるのだとしたら、それはなぜなのか。ヘイトスピーチを行う者たちが盾とする表現の自由、この論理の倒錯をどう捉えるのか。「公」の字義は、王が住まう家、すなわち「おおやけ」（＝王の宅）ともいいます。よく考えると、公共という語の意味が非常に曖昧でわかりにくい。自由という語も同様、実に厄介です。

問題系が散乱し、おかしい、おかしい、こんなことは間違っている、と感じてもなかなか批評につながらない。これだけ情報過多・物流過多の時代に、日々が過ぎていくばかり。音楽からきこえてくること・みえてくることすら、不確実なのかもしれません。が、小さくても確実なメロディを組み立てること、誰もが分有しうるようなリズム、大きな権力を伴わないような活動形態など、探っていきたいこともまた山ほどありますが、そのイントロとしてこの小文を記しました。

日音協セミナー・若い会員の交流会にご参加の皆さんとお会いできることを楽しみにしております。



谷森駿（作詞家・ギタリスト）

第50回はたらくもの音楽祭（東京）に出演しました

「発表が充実」「伸びしろがある」 2019はたらくものの音楽祭 in いわて



MCも上手になった望美さん

日音協岩手県支部のコンサート『2019はたらくものの音楽祭 in いわて』（テーマは「一歩前へ!! スクラム組んでみんなで行く」）を、12月7日（土）盛岡市鉾屋町のもりおか町家物語館浜藤ホールにて行いました。オープニングは岩手県支部が『和平と愛実へ』『たずねておいで』の2曲を会場のみなさんと歌いました。「普段の活動になかなか参加できなくて」と言いながら小野幸伸さんもステージで一緒に歌ってくれました。

発表の先陣を切ったのは『みにおんず』新メンバーの三田地望美さんを入れて3人編成での発表でした。



多才な小笠原さん

続いては、ソロ発表が4名。新毛さんは自作の曲を3曲、高橋円さんはピアノソロと普段応援しているバンドも曲を、三田地望美さんは自作の曲（「こたつむり」なんてわたしのこと?）を、小笠原早苗さんは昔語り・民謡・ジュピターをアカペラでと多様な発表がありました。



はた音初登場 山口安幸さん

また、1週間前に結成された三田地昇二さんと後藤雅裕さんの『Chords of a rest』（はしやすめ）は秋田県支部桜庭智英さんに贈る曲「60回目のクリスマス」と懐かしのフォークを演奏しました。二人の高音がステキに響いていました。

岩手の最後を締めたのはSHMKです。3人編成の発表となりましたが、新曲の発表がありました。ハモリはさすがでした。

秋田県支部から大嶋忠男さん、桜庭智英さん、刀ヱ、Globe of the（藤原真栄さん、後藤雅裕さん）、青森県支部から甲屋文史さんも出演していただきました。

この音楽祭では東北北プロック合宿でできた曲の発表が続いています。今年は、学校職場の実態を歌った「先生たちのスクール

できました。

観客の方々からは、「発表が充実している。」という声がありました。また「ひろめ」のために音楽祭への参加を周りの方々に声をかけた新毛さん。4人の方が聞きに駆けつけてくれたそうです。新毛さんにならって周りの人にどんな声をかけ、広げていきたいですね。

もりおか町家物語館で行うコンサートは3回目となりました。回数を重ねて会場準備が早くなり、リハーサルも順調に進みました。秋田県支部の藤原真栄さん、後藤雅裕さんにPAやセッティングの指揮を執っていただき、リハーサル、本番をスムーズに進めることができました。また、青森県支部佐藤康弘さん、甲屋文史さんにも、セッティングをしていただきました。心から感謝申し上げます。

交流会では、それぞれの感想も飛び出しました。岩手は「伸びしろがある」という声。まだまだ発展途上ですね。CD作りに挑戦してはという声も上がりました。秋田のCD『紙ひこうき』作りで大嶋さんがかなり鍛えられたとのこと。そのせいか大嶋さんの声がぐーんと伸びていましたよね。岩手も声が出なくなる前に？鍛えられますか。

【佐藤幸子事務局長】



3人編成の SHMK



もつと出かけてアピールを

富山県支部が拡大事務局会議

去る12月14日(土) 射水市・「民宿信」において、富山県支部恒例の「県支部拡大事務局会議」+北信越ブロック打合せ会議と望年会を、富山6人と新潟県支部から竹内さん(日音協中央幹事)の参加で開催した。

議題は、1年間を振り返っての感想、意見の他、当面の諸取り組みについて確認した。

特に今回の「北信越ブロック合宿」については、富山で開催した「2019合宿」の感想、総括で、「初日のフリーライブは、良かったか?」について、「協力してくれた外部出演者から『日音協って何?』という質問が出るくらい知



毎年宴会写真ですが、まじめな議論もしてますよ。

られていない現状だ」「もつと出かけて行ってアピールすることが必要だ」との意見が出された。竹内幹事からは、日程、会場、内容についていくつかの案を出してもらって意見を出し合った。

もう一つの議題として、中央からの提起「音楽祭の現状と今後のあり方にかかわる討論」について、これまでの資料を基に話し合った。

富山県支部として5月に提出した意見書に集約しているが、今回は「メンバーの高齢化が進行する中で無責任なことも言えない」という想いがあるものの、「どうやって継続していけばよいのか具体的な議論が必要だ」「ワークショップ方式などはどうか」「音楽やってる人たちはたくさんいるが日音協を知らない」「ライブハウスなどにも自ら飛び込んでいく必要がある」「もつとチューブを活用すれば大きな力になるのではないか」「私は、私たちは、こんな歌をうたっている」とアピールする中で同調してくれる人と出会えるかもしれない」「若い人たちの出会いに自信を持ってアピールしていかなければ展望が見えない」など前向きな意見も夜遅くまで続いた。

年末の寒空に『ヨッシー!』と呼びかけ歌いました!

(6面に関連記事)

12月27日(金) 17時半~18時半の金曜行動が始まる前の1時間に、『ヨッシーを偲ぶ歌の会』を開催した。今年の8月9日に亡くなった田中淑子さん(ヨッシー)は、東京都支部会員であり、メーデー合唱団員でもあり、そして2012年9月から毎週金曜日国会前の荊葉坂で、行動の中心となって歌い続けた。

夫の康夫さんとベルギーで暮らす娘さんの綾さん、そして綾さんの2人の息子さんも到着し、予定の時間を少し押して開会。オープニングは、ヨッシーと日音協をつなぐきっかけの歌であり、ヨッシーが大好きだった「あたりまえの地球」と、ヨッシーが原発の不条理を訴えながら歌った「なにもいない地球」の2曲を全員合唱。次に、メーデー合唱団有志での合唱。ヨッシーと共に歌った「決意」「ノーパサラン」、そして今年の音楽祭でヨッシーを思い浮かべながら歌った「新しい花を求めて」の3曲を歌った。東京都支部有志は、2017年7月に東京で開催された『第50回はたらくもの音楽祭』のオープニングで共に歌った「うたおう命の歌」を歌った。次の演奏は、瓦井孔二さんのギター弾き語り。ヨッシー作の反原発詩「オーイ人間」に瓦井孔二さんが曲をつけた歌を熱唱した。続いて、荊葉坂で知り合った歌仲間のスーさんが今日の会のために作った替え歌「ヨッシーに捧げる歌」(元歌不明)と、ヨッシーが拳を振り上げて歌ったスーさん作詩作曲の「怒りの拳をあげよう」を皆でうたい拳を振り上げた。愛称「スーさん」の命名と、「怒りの拳をあげよう」に「おー!」と拳を振り上げて合の手を入れることを発案したのもヨッシーだったことが明かされた。会が進むほどに、ヨッシーの残したものの大きさが明確になっていくようだった。

会中盤となった残り30分から反原発うたいたいを中心に進んだ。進行は、ヨッシーが体調を崩して以降、反原発歌うたいの中心を担っている千葉県支部の鈴木清美さん。最初の歌は、荊葉坂でうたう仲間となり、昨年から日音協の仲間ともなった加本和美さんが、ヨッシーが亡くなった二日後に作った『あなたに会える場所』(元歌イエスタデイ・ワンスモア)。加本さんの澄んだ歌声に、清く優しく勇ましかったヨッシーの在りし日の姿を脳裏に浮かべたのは私だけではないはず。その後はお忙しい中、今日の日のために駆けつけてくれた久々の上野さんを中心に、荊葉坂三部作とも称される上野さんの作詩作曲の『荊葉坂讃歌』『荊葉坂お迎えの歌』『荊葉坂お見送りの歌』、ヨッシーが心を寄せ歌った『DORE DORE(ドーレドーレ)』、そして上野さんの替え歌『あなたに届けと』(元歌 讃美歌312番)『こどもらの明日のために』(元歌 アメイジング・グレイス)を全員で歌った。

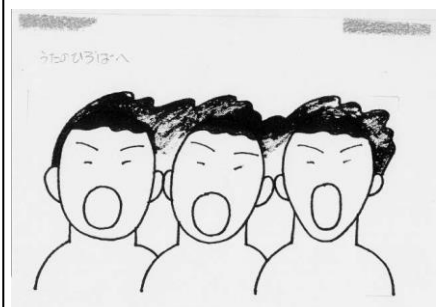
家族の皆さんも歌えるところはずっと一緒に歌ってくださっていた。そして最後に、娘の綾さんとお連れ合いの康夫さんから言葉をいただき、ヨッシーの笑顔全員で思い浮かべて会は終了。最後の記念撮影では、皆で「ヨッシー」と呼んでパチリ!笑顔で手を振り返すヨッシーが見えた気がした。

(坂口美日)

ライブハウスなどに日音協の機関紙「音楽運動」を置かせてもらったかどうかなどと思うのだが、確かに前に足が出ていない。その他、12月8日(日)に高岡市で開催された「加害者としての戦争責任を考える12・8集会」においても県支部メンバーで平和の歌をうたってアピールした。

当面の取り組みとして、「県職

労団結旗開き」(1月7日)、「自治労県本部旗開き」(1月8日)、「平和運動センター合同旗開き」(1月14日)、「2020新春の集い」(1月18日)、「富山県支部第46回総会」(2月6日予定)、「9条をまもり憲法をいかにす民の会(総会・記念講演)」(2月11日)が予定されている。2020年もがんばらんまい(磯野友一)



韓国政治犯救援の

『クナリオンダ』がCDで復刻

1980年に窪田聡さん(当時日音協事務局次長)やひろば合唱団も参加してつくられたレコード・テープ「クナリオンダ」(その日がある)／韓国政治犯・家族の声を聞け!!がCDで復刻されました。1枚 2,400円(送料日音協負担、振込手数料振込者負担)で、日音協にお申し込み下さい。



このレコード・テープは、在日韓国人政治犯を救援する家族・僑胞の会が制作した。制作の意図については、同会の事務局長の金泰明氏が別稿でのべている。製作委員会は、高橋悠治、窪田聡、井野茂雄、家族・僑胞の会事務局で構成した。協力は日音協、音楽担当は高橋悠治。12曲入っているが、実際は10曲。つまり、同じ曲を日本語と韓国語でうたっていたりするからだ。うたっているのは、金文錫、李政美、曹共鉉、それにひろば合唱団。曲目は、その日がある、叫び、プリパ、我が心の涙、再会、我生きんと欲すれど、生日、語り続けて下さい、我らの願い、弾圧(ピアノソナタ)。

(1980/7/25『音楽運動』第158号)



私の演劇人生 2019 (おだかずや)

2019年は、自分の演劇人生にとって本当に大きな前進の年になりました。何と言っても自分で企画するショーを始めたこと。そして秋田音楽祭の直後に秋田でショーを打てたこと。そしてこの2つを通じて、単なるインプロバイザー(即興役者)としてだけではなく、ショーマン(興行者)としての第1歩を踏み出した、ということです。それは「自分の作りたい」「自分が表現したい」演劇をやって行きたい、そういう文化運動を作って行きたい、という気持ちの現れでもあります。

具体的には、9月から毎月、計4本のショーをやりました。
9月：永井愛「歌わせたい男たち」を東京・秋田で上演。
10月：初のワンマンライブ「一人立ち」上演。
11月：プロのインプロバイザーと「2人インプロ」上演
12月：インプロショー“Show!! Garage”上演

内容的にはいずれもお客様からは好評をいただき、出演者たちも満足してくれています。日音協から観劇に来ていただいた皆様には本当に感謝しております。次の課題は、お客様を増やすこと。特に秋田公演では私の情宣が行き届かず、お客様が少なかったのは本当に残念でした。千葉祭典終了後にも午後から公演を企画しております。後夜祭のような感じて来ていただけると幸いです。

今後もサークル名“Periodista”(スペイン語で「ジャーナリスト」)にふさわしく、時代を切り取るような、インプロと社会派の演劇にこだわっていききたいと考えています。よろしく願いいたします。



高橋新会長 豊巻前会長

岩手県支部が総会開催 豊巻会長から高橋さんへ

12月8日(日)盛岡市民文化ホール第1会議室で、岩手県支部総会を開催しました。来賓には、日音協副会長の佐藤康弘さん、青森県支部の甲斐文史さん、社会民主党岩手県連合代表の小西和子県議会議員にお越しいただき御挨拶をいただきました。また、連合岩手から連帯のメッセージをいただきました。

● 私たちの活動を広げるためにどうすればいいのか、新しい人とのつながりを作っていききたい。
● 新しい人だけでなく、会員だけとかなかなか活動できないでいる人、元会員だった人などとのつながりも大事ではないか。名簿を活用して声掛けをしていきたい。
● 集会など歌う場面を大切にしていけることが新しい仲間を増やすことにつながるのではないかな。

● 役員改選では、豊巻直子さんが会長を退任することになりました。長い間、これまで岩手の音楽運動を引っ張った豊巻直子さん、ありがとうございました。(幸子)

—新役員—

会長	高橋 伸明 (自治労)
副会長	金田一史紀 (平環)
事務局長	佐藤 幸子 (久慈地区)
事務局次長	伊藤 裕一 (自治労)
	三田地昇二 (宮古地区)
	高橋 円 (盛岡地区)
幹事	及川 孝 (国労)
	倉本祐太郎 (岩教組)
	八屋ひろ子 (久慈地区)
	新毛 郁子 (二戸地区)

水道橋 だより

あなたに会える場所
(イエスタデイ・ワンスモア)

8月の暑い陽射しに包まれながら
深い眠りにあなたはついた
誰もが別れを繰り返す
そんなことなど
わかっているがあまりに突然すぎた

でも
大丈夫! あなたに会える場所が

国会前のぐみ坂を登れば
自転車止め 旗広げた
あなたがいつも手を振る
あの日のように

そう
大丈夫! あなたに会える場所が

わたしたちには今もあるからね
夏の日でも冬の日でも
笑顔のあなたが待っている
あの日のように
あの日のように
(加本和美さんによる)

▼2020 日音協セミナーの内容。
第 50 回はたらくものの音楽祭で
ゲストとして演奏いただいた港大
尋さんを講師に迎えます。港大尋さん
は、地域で子どもたちと一緒に演
奏するなどの地域活動をしておら
れますので、「21 世紀の共生社会
に向けて音楽で何ができるだろう
か」をテーマにご講演いただきます。
▼港さんを講師に、「音を出そ
う、さて、どうやって? ~実践編~
演奏を通じて抵抗を表明するにあ
たって、どんなことが有効なのか。
その具体的な作業についての提
案・共有」をテーマにワークショップ
でまなびます。(松本)

歌の力が物語るもの 85

官邸前反原発行動 12/27 (376回) 報告 R i c o

参加者 奥さま、坂口、松崎、
鴻巣、加本、スーさん、葉子さ
ん、鈴木、松本、瓦井、満ちち
ん、上野さん、「ミニネツチ、森
達哉、なべさん、 計16名

2019年最後の金曜日。ヨ
ッシーを偲ぶ歌の会だったの
で、お久しぶりのメンバー含
め、大勢集まった。足が痛むの
に、椅子ご持参で来てくださっ
た奥さま、黒いコートで英国紳
士のような上野さん…。ヨッ
シーの思い出を語りながらたく
さんたくさん歌ったのだが、金
曜行動はこれからが始まりだ。
最初は『風車の唄』。偲ぶ会
での思い出語りにつながるよ
うに、スーさんが「これはヨッ

シーが振りを作ったんだ」とリ
クエストした。そして、「まわ
れまわれ 風車よまわれ」の時
にはヨッシーがやっていたよ
うに腕を大きくまわしながら
歌っていた。
たんぼぼ舎のコールも年末
バージョンだ。「原発失くして
明るいお正月を迎えよう〜」
思わず「そうだ!!」と叫んで
しまう。たんぼぼ舎前では、季
節の歌『たき火』に続いて上野
さんシリーズを歌った。『あな
たに届け』と『菜葉坂讃歌』『D
ORE DORE』。最後は定番
『原子力発電NO!』。まだま
だ、来年もよろしくねとエール
を交わした。もうこれっきりさ
ようならと、いつになったら言

えるのだろうか。
元の場所に戻ってから、上野
さんのローハイドの替え歌を
練習した。「ローレン ローレ
ン…」という歌詞は、本当に「東
電 東電…」がよくはまる。上
野さんの歌い方は元歌を模し
ていて、西部劇っぽくて格好い
い。私たちの『DOO 魔炉』も
聞いてもらえた。
冷えてきたが、歌っていると
寒さを感じない。仲間が多いの
は、やはり嬉しい。歌い納めと
して『メッセージ』を歌ったの
だが、なべさんが来たので、そ
れではと『そんな世界が一番』
を歌った。歌い納めといいな
がら、歌いたい歌が次々出てく
る。『前へ!』を2回くり返し、
本当に納めにした。正門前集
会からクッキー坊やのご家族も
帰ってゆく。「来年こそ、原
もアベも無い年にしましよ
う!」と、ママが力強く拳を握
ってみせてくれた。



いつの間にか国会議事堂の
ライトアップも消えていた。私
たちはまた来るぞ。何度でも来
るぞ。熱い仲間とともに、来年
も原発ヤメロ!と叫ぶぞ。

どん行

(126)

飯島貞親

リカへの軍事的
従属を強める
中、中村さんの
警句をどう生か
していくのか、
問われていると
いうのに。

▼12月4日に中村哲さんが凶弾
に倒れた。戦乱や干ばつにより貧
困に苦しむアフガニスタンの人々
に、医療や水源確保などの支援を
続けた医師の死を多くの人が悼ん
でいる。▼「憲法9条があるから
日本は守られているんだ。戦争は
何も生まない。改憲しようとして
いる安倍さんは好きになれない。
軍事力を強化するよりも、水を必
要としている人たちのために用水
路をもっと作るべき。銃よりも用
水路だよ」が彼の口癖だった。▼
2001年、9・11からまだ一ヶ
月しかたつていない衆院テロ対
策特別委員会の参考人質疑で、中
村さんは「現地では日本に対する
信頼」というのは絶大なものがある。
それが軍事行為に、報復に参
加することによってだめになる可
能性がある」「自衛隊派遣が取り
沙汰されていますが、当地の事情
を考えますと有害無益です」と明
確に主張した。これには自民党席
からヤジが飛び中村さんの声がか
き消される場面もあった。▼今回
の事件に先立ち、またしても自公
政府は根拠があらゆるまま中東
への自衛隊派遣を閣議決定した。
野党はスルズルと引き込まれてい
るようで歯がゆい。▼日本がアメ